

夢に挑戦する相産づくりを目指して

○8月9日(月)より中学校訪問を再開しました。4月赴任してから相生市を含め、それより西と北(岡山県側)の本校に在校生がいる中学校はすでに訪問しました。今回も全日制・定時制に来ている揖龍地区・姫路地区約26校を、3日間かけて訪問する予定です。本校に生徒を送っていただいたお礼と学校・私自身の紹介を兼ねて訪問しています。土地勘がないので9日は揖保川・御津中学校にまず行き、北上して龍野・太子町それから姫路地区の朝日・網干中学校を訪問しました。それで午後5時が過ぎてしまったので、心のサポート推進事業で御世話になる網干の「ぬかちゃん福祉作業所」に挨拶に行き、私の住まいのある高砂市の松陽中学校に着いたのが午後6時でした。松陽中学校からも2年生が2名来ています。

訪問させていただき、本来の訪問の内容以外で印象に残ったことがあります。

1 新宮中学校では西播磨の広さを改めに感じました。新宮中学校からも本校に生徒1名が来ています。この遠方からの生徒に感謝します。また、送り出されている保護者の方にも感謝します。そこには新宮中学校50周年記念として東大寺長老;公照氏作成の「夢」というを彫られた石碑がありました。感動を受ける本当にいい字でした。



<校舎;太子西中学校>

<「夢」石碑;新宮中学校>

2 太子西中学校では本校同窓会長の息子さんが昨年度3年生を担当していたとして応対に出てくれました。校舎が非常に斬新な建て方がしてありました。

3 太子東中学校は本当に高台にあり、生徒が「登校」という名にふさわしい学校でした。その校歌は阿久悠さんが作詞されました。また、阿久さんの太子東中学卒業生へのメッセージ「逆境の碑」(逆境を好機に変える天才になれ 軽率に興奮しよう ただし 軽率で終わらない知恵を持とう)の碑文が印象的でした。

校歌は以下のとおりです。太子東中学校さんの了解を得て掲載します。本当にいい詩ですね。

1 番

てのひらの 獅子よりも

大空の 鳥がいい

2 番

踏みしめる 歴史ほど

数しれぬ 未知がいい

志す 高さほど	まなざしを 強くして
はばたけよ 若い子よ	呼びかけよ 時の子よ
ああ 友ありて	ああ 理想ありて
時代は光り	未来は開き
ああ 友ありて 世紀は見える	ああ 理想ありて 明日は招く
山脈を 赤く染め	緑なす 丘の上
群れ集う わが庭は 太子 太子東中学	語り合う わが庭は 太子 太子東中学
ああ 太子東中学	ああ 太子東中学

4 松陽中学校では遅すぎたので校長先生を訪ねず、失礼かと思ったのですが、その場で手紙を書いて資料と一緒に学校のポストに入れさせていただきました。松陽中の体育館で子どもたちが剣道の練習をしていました。私は本校の剣道部を思い浮かべて練習を見ていました。また、参加されていた親御さんに私が話しかけると、「うちの息子は(現在は)20歳ですが、事故に遭い、寝たきりの大変な状態でしたが、習っていた剣道だけは忘れず、ここまで回復しました。今もここで剣道をしています。相生産業に行った生徒さんを知っています。」と私に言われました。息子さんは自転車で通って、今でも子どもたちと一緒に剣道をされていました。私は「剣道続けていること自体が素晴らしいことですし、ここまで回復されているのですから、これからもきっと良くなりますよ。」と息子さんに激励させていただきました。

9日は10校訪問させていただきましたが、どこに行っても本校の山本博也先生に御世話になりますとか、本校卒業生の福井姫路工業元野球部監督に御世話になりましたとか、つながりのある名前が出てくるので、うれしく思いました。また、西播磨地区はやはり広いのを実感しました。

<校長コラム>

苦悩を乗り越えて勝利の人生を

日本でも年の瀬が押し詰まってくると、ベートーヴェンの第九番がよく演奏されます。CDでバーンスタイン指揮の第九を久しぶりに聞きました。あの力強い第九はベートーヴェンの聴力が失われてから作曲されました。彼は20代で、耳鳴りに襲われ、高い音が聞こえなくなりました。音が聞こえなくなる恐怖と戦いながら、孤独感にさいなまれた彼は「一人だ。全くの独(ひと)りだ。」との呻(うめ)きを残して、全く音のない世界に入ってしまったのです。

彼はもう自然の音を聞くことが出来なくなりました。そのかわり、心の耳をとぎすまし、自分の心の中にある歓喜の響きを譜面に落としたのが、第九なのです。まさに、絶望の極みから歓喜を象徴するあ

の名曲が生まれたのです。

また、インドの賢人・ガンジーが亡くなって60年余りが経ちますが、ガンジーは亡くなる3ヶ月前にこんな詩を残しています。「束縛（そくばく）があるからこそ／私は飛べるのだ／悲しみがあるからこそ／高く舞い上がれるのだ／逆境があるからこそ／私は走れるのだ／涙があるからこそ／私は前に進めるのだ」。ガンジーの遺言になった詩です。ベートーヴェンの生き方とも通じる内容です。

悩みのない人はいない。苦悩するがゆえに人間です。その苦悩を乗り越えていくところに人生の勝利があります。

学生時代、私はゲーテが好きで、ゲーテとベートーヴェンが会見した時のことを印象的に覚えています。ゲーテが傍若無人に振る舞うベートーヴェンを敬遠しました。自由人であるベートーヴェンと大臣であるゲーテとは生き方が違いすぎ、二人は人間としての接点はもてませんでした。その結果、決別することになるのですが、お互いの芸術に対する尊敬は一生変わりませんでした。

ゲーテは面白いことを言っています。「大きな目的に達するにはただ2つの道しかない」。その道とは1つは「暴力」、1つは「継続」。もちろんゲーテは後者を選んでいきます。ゲーテ自身が実践したことは時間を作り出すために早起きしたことです。「男子のもっとも臨むべきことは朝の勤労」と詩に歌うほどでした。また行き当たりばつたりの生活を嫌い、「前もって配慮するものは、1日を支配する」とも言っています。ゲーテは晩年、7歳の少年に教えました。「1時間は60分だ。1日は1,000分以上だよ。ボクよ。これを忘れるな。やろうと思えば何でもできる。」と。

私は前日か、通勤の電車の中でその日の予定をノートに書き出します。その項目に沿って動くと時間に無駄がなくなることは確かです。また、細切れの時間が有効に利用できます。教員になってからの習慣です。